

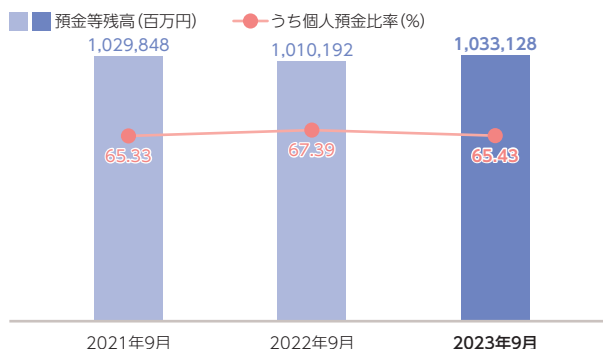


営業等の概況

当行は、地域経済の活性化に貢献していくとともに、中期経営計画の達成に向け全力で取り組んでおります。こうしたなか、社会経済活動が回復しつつあることなどから、中間決算期における預金等残高および貸出金残高は前年同期末より増加しております。なお、長期化するコロナ禍において、これまでの資金繰り支援から伴走型支援の局面に変化しつつあります。また、当行の主要営業基盤である高知県におきましても、地域の皆さまから高いご支持をいただいております。

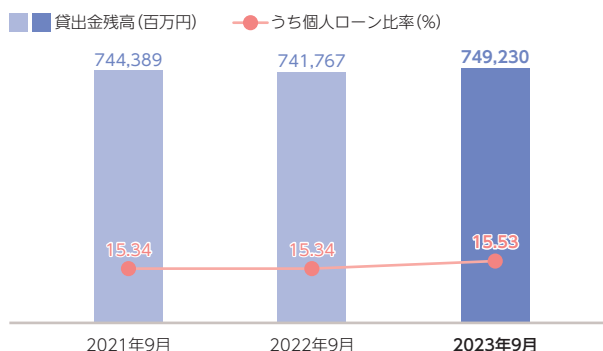
■ 預金等（譲渡性預金含む）

地域経済の活性化をサポートする活動など、地域に密着した営業活動を展開した結果、預金等残高は前年同期末比229億円増加して1兆331億円となりました。



■ 貸出金

お客様の事業環境が変化するなか、金融仲介機能を発揮して地域中小企業をはじめとする事業者の資金繰り支援に真摯に取り組んでまいりました結果、貸出金残高は前年同期末比74億円増加して7,492億円となりました。

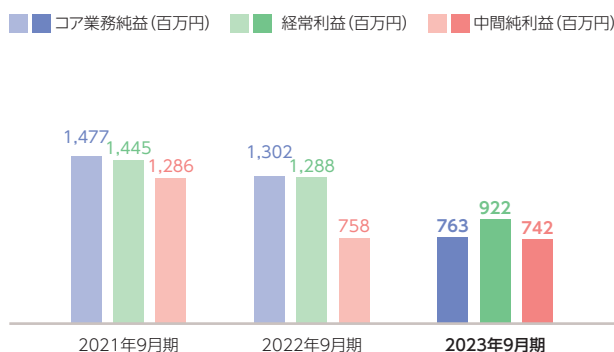


■ コア業務純益・経常利益・中間純利益

地域に密着した営業活動を展開し、業績の向上と経営体質改善強化に努めた結果、コア業務純益は7億63百万円、経常利益は9億22百万円、中間純利益は7億42百万円となりました。

〔コア業務純益〕

コア業務純益とは、資金の運用収支、手数料等の収支、外国為替や債券等の売買の損益等の利益から、債券にかかる損益と経費を差し引いて算出される利益で、「銀行の本業での業績を表す指標」といわれています。



■ 自己資本比率

経営の健全性の重要な指標とされる自己資本比率は、前年同期末比1.39ポイント低下して8.31%となりました。これは、2023年3月に第三者割当増資を実施しておりますが、2023年9月に公的資金を完済したことでコア資本が減少したことによるものです。

